

ねっとわーく

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- ・旧八幡市政100周年記念『旧八幡市検定』
…………北九州市立八幡大谷市民センター
- ・地域の未来をつくる「自治公民館活動」
……………福津市原町公民館
- ・復活！！魅力ある公民館活動～文化の向上とゆとりある
まちづくりをめざして～
……………大川市川口校区コミュニティ協議会
- ・世代を超えた繋がりをめざして ……赤村中央公民館

こちら県公連

- ・第62回福岡県公民館大会報告

平成29年11月 公民館情報通巻139号

発行 福岡県公民館連合会

〒812-8575

福岡市博多区東公園7-7

福岡県教育庁教育企画部社会教育課内

TEL 092-643-3887

FAX 092-643-3889

シリーズ：特色ある公民館活動

北九州市立八幡大谷市民センター



旧八幡市検定

福津市原町公民館



成人祝賀駅伝競走大会

大川市川口校区コミュニティ協議会



第1回川口校区芸能大会

赤村中央公民館



歩け歩け大会

(写真は本文にも掲載)



○校区の概要と経緯

八幡大谷地区は、区役所などの行政施設を中心に、かつて八幡製鉄所「東門」の門前町として栄えた八幡中央区商店街、銀行、郵便局などがあり、皿倉山の山裾には旧八幡製鉄所の創業とともに急速に宅地化された斜面住宅地があり、高齢化率 40%を超える地域です。

八幡は、1917 年市政施行によって八幡村から八幡市になって、今年 100 周年を迎えました。その意義を踏まえ、100 周年を記念して講座を企画・実施しました。

○事業の目的

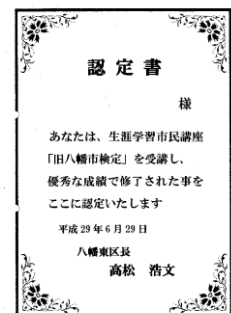
「旧八幡市制 100 周年」を迎え、改めて八幡の歴史を学び、これからの八幡を考え、更なる郷土愛を育てることを目的としました。また、試験を実施することで受講者のレベルアップに、そして認定書を贈呈することで、学習の目標と楽しさに繋がることを期待しました。

○事業概要

- ① 6月 1日(木) 「八幡市前史」 ～八幡村の誕生と製鉄所の誘致～
 - ② 6月 15日(木) 「躍進する鐵都八幡」～近代都市の形成とその発展～
 - ③ 6月 29日(木) 「八幡市と戦後」 ～都市空襲と戦後復興～
- ※時間：10～12時 各回の流れ 「講義」→「テスト」→「答え合わせ」

○成果

八幡100年の歴史を学び、明日からの八幡を考えることや、シビックプライドを育てるきっかけづくりが出来ました。検定という試みは、受講者の方々の真剣な取組とレベルアップに繋がり、ひとひねりの工夫と企画の大切さを学ぶことが出来ました。



【問合せ先】〒805-0019 北九州市八幡東区中央2丁目1番1号
八幡大谷市民センター（TEL・FAX 093-661-1092）

地域の未来をつくる「自治公民館活動」

福津市原町公民館

【組織改革で地域活動を活性化】

原町は、建設後60年程たつ大型住宅団地で、高齢化率が33%に迫っています。近年、少子高齢化が自治会活動に影を落とすようになったことから、未来を見据え、10年前の総会で自治会が担ってきた諸行事を「公民館活動」として再編成することにしました。その結果、公民館長の下に、隣組長を中心とした文化部、体育部、環境防犯部等の専門部と、その活動を支援する行事協力委員会を設置しました。その上で、これらの組織を有機的に機能させるため、定期的に役員会等を開きながら行事運営に当たる体制を作り上げました。以下に、この10年間の取組みから見えてきた成果と課題等を紹介します。

【思いをつなぐ～駅伝王国原町】

福津市では毎年成人式の日、「成人祝賀駅伝競走大会」が実施されています。



成人祝賀駅伝競走大会～原町のゆるキャラ・はらじろうも応援

63回を数えるこの大会は、合併前の旧福間町時代から続く伝統行事で、原町は優勝回数17回を誇っています。その背景には、常に地域の若い世代に目を配り、声をかけてチームに引き入れてきたランニング愛好会・ランナーズが存在があります。元気なおじさん、おばさん世代と若い世代が共につくる常勝チーム——それを体育部や自治会、公民館役員等の地域が支えるシステムこそが「駅伝王国原町」が続いてきた秘密です。

【広がる思い～夏祭り盆踊り大会は大盛況】

昨年度は、直前の降雨で中止を余儀なくされた夏祭り盆踊り大会でしたが、今年度は、一転して大盛況でした。参加者は600人を超え、大会の最後まで人の輪が途切れませんでした。楽しい大会の様子を友人にSNSで伝え、来場を呼び掛けた若い世代がいたと聞き、今までの発想を超えた新しい風が吹き始めたことを実感しました。



夏祭り盆踊り大会の様子

【新しい風～人々の思いを未来へつなぐ】

自治会が担う多様な地域活動を集約しながら、人々の経験や知恵、思いを結び、未来につなぐことが、私たちの「公民館活動」の基本です。原町周辺地域の大規模な開発の影響で近年、原町でも子ども連れの家族が増え、元気な子どもの声が聞かれるようになりました。今、この新しい風を地域の活力として呼び込む努力が求められています。今年度は従来の文化祭とスポーツ大会を一体化した「公民館祭り」を実施しましたが、これは未来を模索する第一歩です。今後も、地域活動に工夫を凝らしながら、未来へつなぐ努力が必要であると感じています。

【問合せ先】 原町公民館

〒811-3212 福津市福間南3-17-1

TEL：0940-42-0805 Email：haramachi@cvn.bbiq.jp

復活!!魅力ある公民館活動 ～文化の向上とゆとりあるまちづくりをめざして～

大川市川口校区コミュニティ協議会

【地域の概要】

川口校区は、市の南部に位置し、有明海に注ぐ筑後川の河口左岸に面した半農半漁の地域です。平成29年9月末の人口は6,002人（2,318世帯）と年々減少傾向にある高齢化地域となっています。校区の自治公民館は11館あり、川口校区コミュニティセンターは、その中心を担っています。

【経緯】

人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、社会への関心が低くなるとともに、地域社会におけるつながりは希薄化しています。こうした時代にあっては、地域住民一人ひとりが社会やコミュニティの一員としての自覚を高め、よりよい地域社会づくりに自ら参加・参画して活動することが文化の向上とゆとりあるまちづくりに繋がると考えられます。

近年、本市における公民館活動の内容は、どの校区においても似たようなものが多く、地域の特徴がなくなってきたように思われます。本校区においても同様で、公民館等の活動は、例年の行事を消化するだけとなっていました。そこで、コミュニティセンターと各公民館がタイアップして取り組んでいた行事を洗い出し、スクラップアンドビルドの考えの下に見直しを図ることとしました。

【活動内容】

地域住民が公民館等の活動に一人でも多く参加しやすい環境づくりをするために、従来行っていたカラオケ大会、文化祭などをまとめて「第1回川口校区芸能大会」を開催することとしました。川口小学校の体育館で行われた大会では、カラオケはもとより、大正琴や日本舞踊、詩吟、フラダンス、舞踊など校区内の芸達者のみなさんが一堂に会し、各公民館等で日頃研鑽を積まれた成果を発表され、参観者から惜しみない拍手が送られていました。



【成果と課題】

この大会を開催したことで、ややマンネリ化した従来の活動を刷新し、さまざまな芸能をとおして、出演者、参観者ともども地域住民が相携え、交流することができました。

ただ、日程等の調整がつかず、子どもたちの参加があまりなかったことが残念でした。

次回からは、園児や児童生徒のみなさんから参加してもらうよう、子ども会や関係機関等との連絡調整を図り、より多くの参加者と地域住民との交流する場を広げることで文化の向上とゆとりあるまちづくりに繋げていきたいと思ひます。

問合せ先

大川市中央公民館

〒831-0016 大川市大字酒見221-11

TEL 0944-88-0015 FAX 0944-88-0017

世代を越えた繋がりをめざして

福岡県田川郡赤村 赤村中央公民館

1. 地域の紹介

田川郡赤村は筑豊地区の東部に位置し、霊峰英彦山の麓で周囲を山に囲まれ、空気が澄み、水が清らかで、お米や野菜がおいしい自然豊かな村です。人口は約3,300人。高齢化が進んでいますが、元気のよい村です。

2. 事業の内容

村民の世代間交流を促進するため、地区公民館の連携事業や中央公民館での講座充実に努めています。

○歩け歩け大会（地区公民館連絡協議会主催事業）

新緑の頃、赤村役場から源じいの森（赤村の宿泊施設）までの約3.5kmのコースを各地区から村民が集まって歩きます。今年の参加者の最高齢は92歳、最年少は翌日に2歳の誕生日を迎えるお子さんで、その差90歳の二人が仲良く歩きました。



○各種講座（中央公民館事業）

中央公民館では、一年を通して書道、切り絵、英会話、小物作りの教室が行われ、もの作り教室やカントリーダンス教室なども定期的に行われています。3年間実施したさげもん教室での卒業生は、自主サークルを立ち上げて活動を続けています。11月の赤村文化祭でこれら学習成果の展示・発表が行われます。



3. 事業の成果

これらの事業において、皆が一緒に体を動かしたりもの作りをしたりする中で、次第に村民の世代間交流が図られ、主体性も芽生え始めています。集う楽しさを感じてもらうことが、更に元気のよさに繋がっています。

【問合せ先】 〒824-0432 福岡県田川郡赤村大字内田 1188 番地

赤村中央公民館長 たにのぶ 谷延 ひろみ TEL 0947-62-3003

第62回福岡県公民館大会報告

第62回福岡県公民館大会が、平成29年8月10日（木）、サザンクス筑後（筑后市）において、県内各地から公民館に関わる831名の方々に御参加いただき、盛大に開催することができました。

近年、少子・高齢化、高度情報化、都市化・過疎化の進行、生活様式や価値観の多様化等、社会情勢の急激な変化によって、地域の

担い手不足や人間関係の希薄化などが懸念され、いかにして持続可能で活力ある社会を構築していくかが問われています。このような中、これまでの学びの場として社会教育の振興に寄与し、地域の自立・協働・創造に大きな役割を果たしてきた公民館が見直されるようになってきました。

本大会は、筑后市において、県内の公民館関係者等が集い、社会の変化への対応や公民館の機能と果たすべき役割、地域課題の解決に向けた新たな取組についてともに学びあうことで、「公民館を核とした人づくり・まちづくりの可能性」について再認識し、日頃の取組への意欲を向上させるとともに、より一層の公民館の充実と発展をめざすことを趣旨として本大会を開催いたしました。



【開会行事の様子】



大会式典の表彰式では、地域の公民館活動の振興に顕著な御功績があった30名の職員の方々に對し、福岡県公民館連合会から表彰を行いました。表彰を受けられた皆様には、これまでの御尽力に対しまして、心から敬意を表します。

【表彰式の様子】



【講演の様子（天野 和彦 氏）】

大会式典後、福島大学うつくしま福島未来支援センターの特任教授であられる天野和彦氏から「この時代が、公民館に求めていること～持続可能なふるさとをつくるために～」と題して御講演いただきました。東日本大震災からの復興の過程を事例に、公民館の役割として「交流の場の提供と自治活動の促進」及び「学びの循環を構築すること」を御示唆いただき、県内の公民館関係者の意識を高めていただきました。

午後のインタビュー・ダイアログでは、「持続可能な地域づくり・人づくりに向けた公民館の可能性は？」と題して、御講演いただいた天野和彦氏をコーディネーターとし、①大牟田市市民協働部生涯学習課の前原雄樹氏、②柳川市立垂見校区公民館の川口千利氏、③宗像市吉武地区コミュニティ運営協議会の高山國敏氏に御登壇いただきました。それぞれの公民館等における地域課題解決や目的に沿



【インタビュー・ダイアログの様子】

った取組から、4つの質問を意見交流の柱に、3人の登壇者とも、持続可能な地域づくりのためには公民館活動が不可欠であると主張されました。そして、「公民館と地域住民が互いに必要とする・される関係」を構築することが、インタビュー・ダイアログのまとめとして示され、今後の福岡県の公民館のあるべき姿や方向性が確認できたと思います。

本大会を開催するに当たっては、特に、南筑後地区の皆様の御尽力により成功裡に終えることができました。心より感謝いたします。

来年度は、筑豊地区での大会を予定しております。参加された皆様からいただいたアンケートの結果等も十分参考にさせていただき、さらなる大会運営の改善に努めてまいりますので、今後とも公民館活動の充実・振興のために御尽力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。